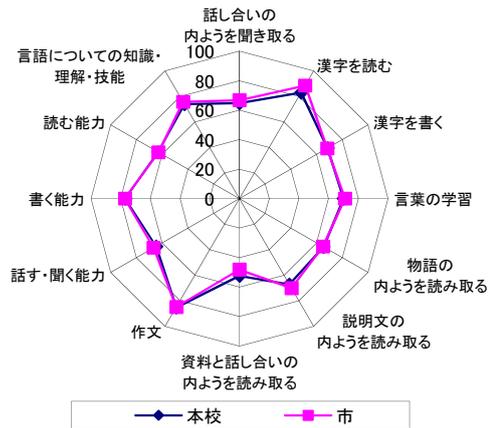


# 宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	64.7	66.6
	漢字を読む	82.9	88.4
	漢字を書く	68.4	68.2
	言葉の学習	70.2	71.0
	物語の内ようを読み取る	65.3	64.9
	説明文の内ようを読み取る	67.2	70.1
	資料と話し合いの内ようを読み取る	52.3	48.3
	作文	85.2	84.9
観点別	話す・聞く能力	64.7	66.6
	書く能力	76.9	77.1
	読む能力	63.0	63.0
	言語についての知識・理解・技能	74.0	75.8



## ★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	正答率が65%で、十分に定着しているとは言えない。しかし、市の平均も66.6%と低く、内容が難しかったとも考えられる。問題文を2回聞くことができた割には聞き取れていないので、話のポイントをつかめなかったのではないかと考えられる。	本校の児童の実態として、話すことはできるが話を聞くことができない傾向にあるので、これから6年生になると、更に聞く能力が必要になることを話し、聞き取りのテストの時間だけでなく、普段の授業でもその能力が生かせるように心がけさせたい。
漢字	漢字の読みは正答率が83%で、おおむね定着していると言える。しかし、市の平均とは5ポイント以上の開きがあり、漢字が読めるとは言い難い。特に4年生の漢字が読めていない。漢字の書きは正答率が70%をきっており、苦手な傾向にあることが分かる。しかし、市の平均は上回っており、漢字練習や漢字テストの効果が表れていると思われる。	読書の効果として漢字がよく読めていることを話し、これからは、好きな分野だけでなく、様々な種類の本に親しむようにさせたい。漢字の書きに関しては、普段のノート記入や作文などの指導の際に、習った漢字を必ず使うようにさせるとともに、分からないことを自ら調べることを実践させたい。
言葉の学習	言葉の学習の分野では、特に漢字の成り立ちの理解についての定着率が低かった。また、句読点の打ち方に関しても、市の平均より低かった。ことわざの使い方に関しては、市の平均を大きく上回った。	漢字の成り立ちに関しては、教科書の内容の学習だけでは足りなかったようである。もう一度、プリント等で復習させたい。ことわざに関しては、国語の時間にことわざ調べを行ったことがよい結果に結びついたようだ。今後も、言葉への興味・関心を高めるられる内容を取り入れていきたい。
物語の内ようを読み取る	定着率が65%で、十分に定着しているとは言えない。しかし、市の平均には到達しているので、問題が難しかったのかもしれない。特に、場面の描写を捉えて表現の特徴をつかむ分野での正答率が低かった。	物語を読んで内容を理解する能力はおおむね身に付いていることを話して自信をつけさせたい。そのうえで、6年生の国語の内容が難しくなることも話し、これからも読書を続けていくことが力を伸ばす有効な方法であることを知らせ、実践させたい。
説明文の内ようを読み取る	正答率が67%で、市の平均よりも3ポイントほど低く、十分に定着しているとは言えない。特に、文章の構成を捉えながら、内容を的確に読み取る分野での正答率が低かった。	説明文については、児童の興味にもかなりの差があるようだ。物語文は読めても、説明文になると苦手意識が働いてしまう児童も多い。いくつかの説明文を用意し、段落と段落とのつながりを意識しながら読むようにさせたい。
資料と話し合いの内ようを読み取る	正答率が52%で、低い定着率であった。しかし、市の平均には達しており、問題が難しかったのではないかとと思われる。	国語や総合の時間に、資料を収集し、それらの中から必要なものを取捨選択してまとめるという学習は、これまでも経験している。得意な児童とそうでない児童との差が大きいため、話し合いの時間を有効に活用して、得意な児童の意見や考え方を参考にさせたい。
作文	正答率が85%を超えており、十分に定着していると言える。各設問を見ても、定着率が低い問題はなかった。	国語の学習内容で作文を書いたり、意見を書いたりする分野が増えたことがよい影響を及ぼしたのではないかと考えられる。経験を積むことで書くことへの抵抗もなくなり、必要なことを書けるようになるのだろう。今後もそれらの内容を有効活用したい。